

いしかわ
うるま市石川地域資源保全の会（沖縄県うるま市）

- 畑地帯である石川地域において、主に農道の適切な保安全管理に向け「うるま市石川地域資源保全の会」が組織され、多面的機能支払交付金の前身事業から活動を開始。
- NPO法人^{たいむ}大夢により、農作業を通じた就労支援を行う場として平成24年度に就労継続支援B型事業所「大夢」が、翌年度にはA型事業所「プチ大夢」が開所するも、作業場となる農地の確保が難航。地域の理解増進に向け、うるま市石川地域資源保全の会の草刈りにプチ大夢も参加。参加者の自信に繋がるとともに、草刈りを通じて農業者との相互理解が図られ、農地の確保にも寄与。
- 現在もプチ大夢は草刈りの主戦力となっている。

【地区概要(R6年度時点)】

- ・取組面積 120.4ha
(畑 120.4ha)
- ・資源量 水路1.6km、農道26.8km
- ・主な構成員 農業者、土地改良区
- ・交付金 約1.5百万円

一 連携した活動を行うことによってどのような効果を感じていますか。

(保) コロナ禍以降農家さんの参加がだいぶ減ってしまっている中で、うちの団体の活動が成り立っているのは大夢さんのお陰です。

(大) 草刈りとか、ちょっと手伝ってくれんかと話があった所に人を入れるようにしていったら、そこから農地を貸していただいたり仕事をいただいたりの流れができて、win-win以上の関係を作らせてもらっています。障害者でも働けるというのを分かってもらえたのが一番大きいかなと思います。

それと、松田さんが名前を呼んでくれるのでメンバーさんも喜んでいて、これまでは外に出たがらなかった人が次も行くという気持ちになっています。認められて自信が付いたこともあるだろうし、信頼されたり、期待されていると感じられるのが大きいと思います。気軽に話ができる環境というのが一番かなと思います。

(保) 前職でちょっとだけ特別支援教育支援員の経験があつて、接し方さえ間違えなければ徐々に慣れてくれて同じように作業できるのを知っていたので、僕の方から声を掛けて指示を出したりしています。燃料や替え刃が欲しいといったこともメンバーさんが直接聞きに来てくれて、信頼関係ができていく感じがしますね。

(保)：石川地域資源保全の会
(大)：特定非営利活動法人大夢



特定非営利活動法人大夢
理事長 石川哲次 氏

一 危険も伴う草刈りへの参加はチャレンジングにも感じます。

(大) 草刈りに参加するメンバーさんは就労継続支援A型事業所に所属していて作業能力は高く、同じメンバーが繰り返し作業しているので、安全面で声を掛けることも今はあまりないです。やっぱり初めて機械を持たせるときは怪我をしたらどうしようと怖いですが、でもやっていくうちに慣れてきて、これまで機会が与えられていなかっただけでやればできるんだとこちらも気付いたという感じです。

一 今後の展望を教えてください。

(大) 大夢としては、将来的には農地を更に拡大したいですが、出荷量が増えたのでこれを維持していくのが当面の目指すところです。

(保) 高齢の農家からは場内の草刈りを手伝って欲しいと話があり、僕たちが仲介して大夢さんに紹介したことがあります。高齢化が進んで遊休農地も増えてくるので色んな仲介役にもなれたらいいなと思っています。参加者の確保に向けては、部活動の父母さんに声を掛けてみたいなと思っています。



特定非営利活動法人大夢
サービス管理責任者
比嘉清 氏



石川地域資源保全の会
事務局 松田久俊 氏

連携のきっかけ（H25）

- ・NPO法人大夢が、農作業を通じた就労支援を行う場として就労継続支援A型事業所「プチ大夢」を開所するも、農業者からの理解を得にくく農地の確保が難航。
- ・地域の理解増進に向け、NPO法人大夢がボランティア活動を模索。NPO法人大夢の代表と当時のうるま市石川地域資源保全の会の事務局担当者が同級生であったこともあり、農道の草刈りへの参加を開始。

Step 1（H25～）

草刈りを通じた理解の増進

- ・農道の草刈りに、うるま市石川地域資源保全の会から10名程度が、プチ大夢から月1～2回、15名程度が参加。
- ・障害があっても仕事ができる姿を見てもらえ、徐々に障害者福祉に対する地域の理解が増進し、農地の拡大にもつながっていった。

Step 2（R1頃）

プチ大夢等における生産活動の成長

- ・農地の拡大による出荷量の増大、近隣農業者生産分の袋詰め作業及び協力野菜としての出荷による出荷量の増大、施設外就労としての近隣農家への派遣など、プチ大夢等の生産活動に係る事業が拡大。
- ・これに伴い、農道の草刈りに派遣できる一回当たりの人数は抑制傾向に。

NPO法人大夢（たいむ）の概要

- ・約900坪の農地で農業をしていた農家とともに平成24年に就労継続支援B型事業所「大夢」を開所。翌年には就労継続支援A型事業所「プチ大夢」、児童デイサービスを開所し、その後も近隣市村にて事業を展開。
- ・地域社会の中で自分自身の考えと力で、働く場所や社会参加の場所を築けるよう、子どもから大人まで一貫した福祉サービスの提供を行い、大人への就労支援、子ども達への療育支援に取り組む。
- ・就労支援では、ネギ、ニラ、ハーブ等の栽培、袋詰め、スーパーマーケット等へのお荷までの作業を実施。農地は8箇所約6,000坪にまで拡大。福祉分野の職員だけでなく農業関係者も雇用して利用者をサポート。

みんなで耕そう！

ノウフク

NOUFUKU PROJECT



（上2枚）草刈りは平坦な舗装道路脇で実施。敷地内での練習とは異なり、作業時間の制約がある中で一般車を含む車の往来にも注意をしながら複数の者と分担・連携して作業を行う必要がある。草刈り機が一番人気。

（下）作業機械の使用や消耗品の授受に当たっては、プチ大夢の利用者とするうるま市石川地域資源保全の会の事務局担当者である松田氏が直接やり取り。コミュニケーションがプチ大夢の利用者の自信にもつながっている。



体制図

NPO法人大夢
（就労継続支援
A型事業所
プチ大夢）

相互理解の醸成により
農地の賃貸借、
農作業の受委託などの
つながりに発展

農道の草刈りに参加

うるま市石川地域資源保全の会

農業者

うるま市石川土地改良区

あがりやま
うるま市石川東山土地改良区

Step 3（R3～）

コロナ禍での活動

- ・コロナ禍で草刈りへの地域の農業者の参加も減少。
- ・予定していた範囲が終わらない場合は、協力してくれる農業者に個別に依頼すること。

Step 4（近年）

現在の活動

- ・草刈りは例年10月頃から開始し年間で10回弱程度実施。プチ大夢からは、令和6年度、令和7年度はそれぞれ5回の草刈りに参加。各回、プチ大夢から5名程度、農業者が1～2名程度集まり、うるま市石川地域資源保全の会の事務局指示の下で草刈りを実施。
- ・プチ大夢の参加メンバーは固定で、草刈り機を使用した草刈り、鎌によるフェンス等のツルの除去、ノコギリやチェーンソーによる枝切り、送風機による刈草集め及びトラックへの積載の作業を分担して実施。施設職員1名が作業に同行し、安全管理（見守り）を実施。
- ・作業機械は、敷地内で練習を行った後に本番として農道で使用。

【主な交付金の使途】

- ・草刈りの日当
- ・燃料、刈刃 等

今後の展望

- ・引き続き協働による草刈りを通じて相互のつながりを維持しつつ、参加者の確保に向けた取組を検討。
- ・高齢化が進み遊休農地も増加することから、石川地域資源保全の会が地域の仲介役になれたらという思い。
- ・NPO法人大夢としては、近年増加した出荷量を維持できるように継続して取組。